

令和6年度 第3回 小牧市健康づくり推進審議会 議事録

日 時	令和7年2月19日（水） 14時00分～14時55分
場 所	小牧市役所本庁舎 601会議室
出席者	【委員】（名簿順） 高野 健市 小牧市医師会会長 竹内 友康 小牧市歯科医師会会長 三輪 雅一 小牧市医師会 堀尾 恭正 小牧市薬剤師会副会長 寺本 圭輔 愛知教育大学保健体育講座教授 夏目 有紀枝 名古屋経済大学人間生活科学部准教授 佐藤 史洋 小牧市立小中学校長会 土屋 一義 小牧市地区民生委員児童委員連絡協議会 山田 勇 小牧市老人クラブ連合会副会長 加藤 陽子 一般公募市民 中島 早織 一般公募市民 柴本 大慈 全国健康保険協会愛知支部 林田 賢 市内企業労務担当 【代理出席】 井後 純子 春日井保健所 保健管理監 【事務局】 江口 幸全 健康生きがい支え合い推進部長 野口 弘美 保健センター所長 西村 泰洋 保健センター所長補佐 森 里加 保健センター 成人保健係長 宮田 祐子 保健センター 成人保健係主査 藤井 めぐみ 保健センター 成人保健係保健師 佐々木 泉 保健センター 成人保健係歯科衛生士 永井 政栄 健康生きがい推進課長 倉知 佐百合 健康生きがい推進課 健康政策係長 小川 真波 健康生きがい推進課 健康政策係主査 田中 千月 健康生きがい推進課 健康政策係保健師
欠席者	3名 小島 英嗣 小牧市民病院副院長 佐藤 清美 保健連絡員役員 青木 翔太 地域包括支援センター
傍聴者	0名
配付資料	資料1 糖尿病対策専門部会の設置について 資料2 女性の健康づくりに関する取組について 資料3 歯と口腔の健康づくり専門部会 令和6年度の取組について 資料4 ヘルスラボ・こまきについて 【当日追加資料】 ・ヘルスラボ・こまき パンフレット
1 開会 (1) あいさつ 2 議題 (1) 糖尿病対策専門部会の設置について（資料1をもとに説明） 竹内副会長） ・ 糖尿病対策専門部会の構成員に、歯科医師会も含めていただくことは可能か。歯科医師会としては、本部会の構成員としていただいた方が取り組みをしやすい。	

事務局)

- ・ 歯科医師会の先生にも入っていただきたいという構想があったが、歯科医師会の先生には、歯と口腔の専門部会にも委員として出ているため、先生方の負担軽減のためにも連携するという形で進めていけたらと考えている。

高野会長)

- ・ 歯と口腔の健康づくり専門部会は、年に何回開催しているのか。

事務局)

- ・ 令和6年度は2回実施した。また、来年度については2回もしくは3回を予定している。
- ・ 歯と口腔の健康づくり専門部会と連携を図りながら、糖尿病対策専門部会の構成員を総合的に検討していきたいと考えているが、竹内副会長のご意見も踏まえ、検討させていただきたい。

高野会長)

- ・ 歯科医師会の負担が大きくないようだったら、各部会が縦割りとならず、それぞれが連携していけるように、構成員について引き続き検討していただきたい。
- ・ その他、糖尿病対策専門部会を立ち上げるにあたって、提言しておきたいことはあるか。

山田委員)

- ・ 糖尿病を早期発見することが極めて重要であることは当然だが、小牧市健康づくり推進プランの中では、小牧市が行っている特定健康診査の実施率が40.5%と非常に低い。そのため、特定健康診査の受診率の向上を目指すということを明確に謳うのはどうか。

事務局)

- ・ 本市においても、特定健康診査の受診率を上げていくということは喫緊の課題であると考えており、「健診受診による早期発見」を検討課題としている。本部会の立ち上げにより、健診受診による早期発見、また、健診後の精密検査や適切な受療による早期治療の開始について、検討していきたい。

柴本委員)

- ・ 全国健康保険協会愛知支部では、企業の経営者や担当者と一緒に、従業員に健診受診の必要性を伝えたり、企業における健康づくりをサポートする取組を進めている。例えば、健診の実施率向上に向けた取組として、企業と連携し、「健康宣言」という取組がある。
- ・ 働く世代のうちから健診を受けることを習慣づけ、退職後も引き続き受診していただけたら良いと考えている。
- ・ また、重症化予防については、健診の結果が悪くても受診しない方を抽出し、受診勧奨の案内をしている。
- ・ 今後も、市と連携して健診受診の必要性の啓発や、重症化予防に関して推進していきたい。

林田委員)

- ・ 先日、当社の従業員で、産業医が再三にわたって注意をしたものの、自分は大丈夫だということで、最終的に足を切断してしまった方いる。
- ・ その方のように、健診結果が悪くても、症状が出なければ受診につながらないことが多い。そこで、安全衛生委員会において疾病による症状を映した写真を提示し、疾病の怖さを知ってもらった上で、早期発見・早期治療の重要性について、実例を

交えて伝えている。

- ・引き続き、市においても健診の受診率向上に向けた取組や、重症化予防についてお力添えをいただきたい。

高野会長)

- ・これまでに出了意見を参考にし、引き続き糖尿病対策専門部会の立ち上げに向けて検討していただきたい。

(2) 女性の健康づくりに関する取組について(資料2をもとに説明)

高野会長)

- ・骨粗しょう症は、女性に多い病態であり、健康寿命を損なう要因の一つである。しかし、若い世代になるにつれ、骨粗しょう症検診の受診者数は少ないという説明があった。若年女性の測定を促進するための取組として、意見はあるか。

加藤委員)

- ・子育て中の母親は、自分よりも子どもが中心になることにより、検診を受診できていないのではないかと思う。また、骨密度の減少は自覚症状がないということも、骨粗しょう症検診の受診につながらない原因なのではないか。
- ・子育て中の20代、30代の女性にも測定を受けていただくための方法として、子どもの1歳6か月児健診や、3歳児健診の場を活用するのはどうか。その他、児童館や子育て世代包括支援センターなど、子どもを連れて行った時に、母親がついでに測定を受けることができる仕組みや機会があるとよいと思う。

事務局)

- ・加藤委員からご意見があったように、子育て中の母親は、自身の健康状態に十分注意を払えないのではないかということで、今回、試行的な取組として、乳癌の超音波検診と同時に骨密度の測定も行った。結果、超音波検診の受診者のうち、ほとんどの方が、骨密度の超音波検査も希望された。このことから何かの「ついでに」受けることの重要性を再認識した。
- ・今後も、保健センターの行事に限らず、子育て世代包括支援センターとも連携しながら、気軽に測定できる機会を設けていく。

高野会長)

- ・子どもの健診の機会や、乳がん検診の機会を活用するということは、裾野を広げるためには非常に良い方法であると思う。

竹内副会長)

- ・歯科の治療のためにレントゲンを撮影するが、下顎骨の骨皮質の厚さで、骨粗しょう症の疑いをかけることができる。骨粗しょう症治療で内服する前の段階で早期発見することが重要であるため、歯科医師会としても、今後、協力できるようなことがあれば考えていきたい。

高野会長)

- ・骨粗しょう症の診断が下りたら薬物治療が必要になるが、薬物治療が必要になる前の若いうちに骨密度の低下に気づき、運動をしっかりとさせていただくことで予防することもできる。そのため、運動をすることの大切さについてもあわせて啓発していけたらと思う。

山田委員)

- ・先ほどの議論でもあったように、たとえ測定会があっても、骨密度の測定だけが目的であると参加しにくいと思う。

- ・ 例えば、特定健康診査とセットで骨密度の測定を実施するなどを検討するのはどうか。

事務局)

- ・ 現状、特定健康診査は個別健診という形でかかりつけ医の先生のところで受診するシステムになっているため、合わせてということは難しいものの、がん検診等と同時に実施するという方法であれば速やかにやっていけると思う。一方で骨粗しょう症検診は現状、集団検診のみで行っているため、他市町の状況を踏まえて効果的な実施方法について検討していけたらと考えている。

高野会長)

- ・ 現状、特定健康診査は個別健診としてそれぞれのクリニックで実施しているということで、メリットとしては顔を知った先生に実施していただけることであると思う。しかしながら、一律に骨密度測定器を取り入れているクリニックばかりではないというところがデメリットである。

夏目委員)

- ・ 骨粗しょう症予防には、最大骨量を若いうちにいかに高めておくということが非常に重要である。そうすると、一番骨が強くなりやすい時期は10代後半から20代前半であると言われている。そのため、その年代をターゲットにした情報提供も重要であると考えている。
- ・ 大学で学生たちに、今こそ骨を強くしておくときだと伝えたと、案外知らない学生が多く、驚かれることがある。そのため、情報提供だけであっても、高校生や大学生にかけての年代に、「今、骨を強くしておくときと将来いいことがある」という話をしておくといいと感じる。
- ・ また、保健センターには管理栄養士の方がいらっしゃるため、健診の際に、骨はカルシウムやビタミンD、ビタミンKも重要であるということを周知啓発していただけるとよいと思う。
- ・ 骨にはカルシウムが大事であることは有名だが、近年は、ビタミンDとビタミンKも重要であるということが言われており、とりわけビタミンDに関しては、日本人は性別年代問わず不足がちだと言われている。血液検査でも血中ビタミンD濃度が低い人が非常に多いという話も聞いている。食べ物でいうと、お魚やキノコ類に含まれることが多いビタミンDも意識しようというお話をすると、効果的であると感じる。

(3) 歯と口腔の健康づくり専門部会の報告について(資料3をもとに説明)

竹内副会長)

- ・ 保育園でのフッ化物洗口について、私立保育園でもフッ化物洗口は実施されているのか。

事務局)

- ・ 私立保育園については、園の考えによりすべての園で実施しているわけではない。

竹内副会長)

- ・ 公立だったときにはフッ化物洗口を行っていても、私立になると辞めてしまう園が増えていると感じる。フッ化物洗口は高額な費用を必要としないため、市からフッ化物の配布を行うことは可能か。

事務局)

- ・ 市からフッ化物を配布することについては予算が関係することであるため、検討を

していく必要がある。フッ化物洗口の導入にあたっては、市内の全保育園を対象に、市として事前の研修会を毎年行っており、私立の保育園もご参加いただいている。その後、実施するか否かについて、その園で検討される。

- ・ 市としては、できる限り一つでも多くの園に実施をしていただけるように現状も働きかけを行っているところであり、今後も引き続き、継続して働きかけを行っていきたいと考えている。

山田委員)

- ・ 資料3の②成人期・高齢期の項目に、【定期健診を受ける者が増えない】【休日など予約は取りづらい】という課題が記載されている。しかし歯科医院によっては、平日の夕方ごろまで診療をやっている医院や、土曜日にも診療をやっている医院もあるということで、十分に受診可能であると思う。
- ・ また、会社勤めの人に対しては、会社が毎年実施する定期健診の一環として、歯科健診を受けることを義務づけてもいいのではないかと思う。

竹内副会長)

- ・ 法律上必須ではないため現状は仕方ないとはいえ、今後は会社の健診の一部として歯科健診を取り入れてもらうよう働きかけをするのは問題ない。
- ・ 会社側も、歯科健診を各会社で集団健診での実施でよいと、実施していただけるような形をとっていただけると良いと思う。
- ・ 現状、小牧市歯科医師会では、市内で一社にのみ、歯科健診に行かしていただいている。そのため、もっと多くの企業で歯科健診を実施していただけるようになると、良くなっていくのではないかと思う。そのような働きかけもお願いしたい。

(4) ヘルスラボ・こまきについて(資料4をもとに説明)

高野会長)

- ・ 食育SATや体組成計など、様々な機器が導入されている。ぜひ、周知をしていただきたい。

(5) その他

事務局)

- ・ 議事録を作成後、皆様に確認いただいたのち公表したい。
- ・ 令和7年度の審議会は、5月、11月、令和8年2月の水曜日に開催予定である。
- ・ 開催通知は、改めて送付させていただく。

3 閉会